

【評価実施概要】

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 事業所番号 | 2775802131 |
| 法人名 | 有限会社家族の家 |
| 事業所名 | グループホーム 花の里 |
| 所在地 | 大阪市平野区長吉出戸4丁目1-5 電話 06-6797-5335 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人エイジコンサーン・ジャパン |
| 所在地 | 大阪市住之江区南港北2-1-10ATCビルITM棟9階 |
| 訪問調査日 | 3/10/2008 |

【情報提供票より】(2008年1月28日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-------------|-----------------------|------|
| 開設年月日 | 平成18年 3月 1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 19 人 | 常勤8人, 非常勤10人, 常勤換算15人 | |

(2) 建物概要

| | | |
|------|---------------|--------|
| 建物構造 | 軽量鉄骨2階建て準耐火建築 | 造り |
| | 2階建ての | 1~2階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|-----------------|------------------|----------------|----------|-------|
| 家賃(平均月額) | 60,000 円 | その他の経費(月額) | 70,000 円 | |
| 敷金 | 有(円) | 無 | | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 有(300,000円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 | 400 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ | 100 円 |
| | または1日当たり | | 1,200 円 | |

(4) 利用者の概要(1月28日現在)

| | | | | | | |
|-------|-----|------|----|-----|-----|-----|
| 利用者人数 | 17名 | 男性 | 3名 | 女性 | 14名 | |
| 要介護1 | 4 | 要介護2 | 4 | | | |
| 要介護3 | 7 | 要介護4 | 0 | | | |
| 要介護5 | 2 | 要支援2 | 0 | | | |
| 年齢 | 平均 | 81歳 | 最低 | 62歳 | 最高 | 96歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---|
| 協力医療機関名 | 医療法人酒井診療所、医真会八尾総合病院、瀬浦歯科医院、介護老人保健施設あおぞら |
|---------|---|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム花の里は地下鉄谷町線出戸駅から徒歩5分の住宅街にあり、レンガ壁の瀟洒なたたずまいである。玄関にはプランターに花が咲いている。リビングも広く利用者が作った版画、紙粘土のお雛様など利用者の力作が揃っていた。事業者は元医師で其の父である医師が開業していた医院の後を地域に還元できることをしたいとの考えで建てたものである。地域の一人住まいの高齢者が自宅が立ち退きになり自宅に戻れないという状況で相談を受け入居受け入れを決めたと言う例もある。管理者は長年介護の職について経験豊かであり、略ホームの運営は事業

| | |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では開所間もないことから書類の不備を指摘されている。今回も介護記録が充分とはいえない。毎日の記録は利用者の体調などの変化を分かりやすく記録し日々の介護に資するためである。記録しているが必ずしも見易いとはいえない。個人別の体調の変化、食事摂取量水分摂取量など一目で分かるような書式の改善を望む。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 計画作成担当者の一人が退職したため、職員の聞き取りと、日常の観察などを踏まえて主に管理者が作成した。自己評価をすることで日々業務を振り返り管理者と職員が自己評価を挟んで意見を出し合う機会とし、今後に活かされたい。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は開かれているが定着していない。NPO法人が開く認知症研修会に家族の一部の参加があることを運営推進会議と位置づけているがそれはあくまでも研修参加と言うことになる。家族の参加が期待できない利用者が多いとのことである。地域の代表、市町村の代表、民生委員など多方面の意見を求めるための運営推進会議である。根気良い努力を期待する。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族がいない、遠方である、遠縁で普段から交流がなかったなどの理由もあり、家族の来訪は少なく限られている。必然的に苦情も少ない。要望事項などは其の都度対応するが特に大きい苦情と言うものはなかった。家族のない方よりどころとしてのホームの存在は大きい苦情・要望をどんなことでも言い易い関係をこれからも築いて欲しい。又申し入れの記録、対応の記録を残されたい。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との関係は殆ど取れていない。又管理者が難しいと考えている。しかし今後は地域へ参加の意向もあり取り敢えず夏祭り・年末の警ら・ホーム周辺の清掃を計画している。ホーム内での認知症研修を地域に開くなど積極的に地域に働きかけることを考えられたい。 |

2. 調査報告書

調査員氏名 南 ヤエ

同行調査員氏名 平井 英蔵

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|--|---|---------------------|---|
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 『地域の中で当たり前暮らし』と『人間の尊厳を大切に』を、理念としてあげている。 | | 理念を掲げることで利用者・来訪者は勿論職員も常に意識が高まる。理念は掲げられている。 |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念を、全職員に年度始めの全体会議で話し、理念を周知する様にしている。理念を基に、事業計画を立てている。今年度は、計画(のうち少ししか実現出来なかった。)通りではなかったようである。 | | 日常生活の中で常に入居者側に立った介護支援の実現のため、計画だけでなく実現に向けて更なる努力を期待する。 |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の一員として、自治会、老人会、行事などの地域活動に参加して交流を始め。夏祭り、年末の夜間の警らホーム周辺の清掃への参加をしたいとの要望はあるが実現化は難しい状態である。 | | 管理者、職員は地域との交流を願っているが繁忙のため中々思うように行っていない。まずは管理者自身が地域の会合に出向くなどして地域との接点を見つけて交流につなげられたい。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 昨年度の外部評価を活かしてミーティング等を実施するも継続困難である。職員の確保により実施していく。 | | 前回の外部評価で指摘されたことはすべて解決できているとは言えないが、管理者は職員の意見も取り入れて改革に努めている。 |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|------|--|---|---------------------|--|
| 5 | 8 | <p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>評価をもとに家族との意見等を参考として、サービスの向上に活かしている。</p> | | <p>運営推進会議は定期的にかかれていない。家族の参加が望めない利用者が多く参加できる家族は限られている。地域の参加も今は出来ていない。自治会・婦人会・老人会に働きかけ認知症の講習会にホームを使うことなど、ホームを地域に開くことから地域との交流を図ってみたい。</p> |
| 6 | 9 | <p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> | <p>申請手続き等も社労士と連携しているが行き来する機会を増やすよう努めている。</p> | | <p>生活保護受給者も複数入居していることもあり市町村との連携をより一層努められたい。</p> |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | <p>随時行っている。</p> | | <p>必要なことは家族に随時連絡している。連絡不要との身元引受人もいるが、毎月の報告書は送付して確認のサインをして返送してもらっている。</p> |
| 8 | 15 | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>密に家族との連絡をとることにより取り組む努力をしている。施設に任せっきりにされている家族が多い。家族との疎遠者、遠隔地、高齢であるため。</p> | | <p>家族との縁の薄い利用者には特に其の気持ちを汲み取るよう今後とも格段の配慮をお願いしたい。</p> |
| 9 | 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>職員の確保に努めている。</p> | | <p>管理者は職員が安定して業務できるように出来るだけ待遇の改善を図られたい。職員の定着のために勤務待遇の改善、研修の参加協力などの方針を打ち出しているところは大変評価できる。</p> |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|---|---------------------|--|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>地域ネットワークの構成メンバーへの参加など行っている。</p> | | <p>研修参加の勤務体制の援助は取り入れている。個々の職員のスキルアップを図ることは利用者のためであることは当然であるが、牽いてはホームの更なる発展につながる。研修の年間計画を策定することにより、実現に向けた体制をとることが出来る。</p> |
| 11 | 20 | <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>職員の業務の質問や疑問点を解消するため研修や勉強会等の参加を勧めてゆくことを考えている。</p> | | <p>平野区のグループホーム連絡会に管理者は参加できているが職員までの交流はできていない。これからは職員の交流も図りたいと管理者は考えている。同業他事業所職員同士の交流は自分の仕事をふり返り、また視野も広がることにつながる。</p> |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>家族への聞き取りをし、その場の雰囲気に合わせて援助している。本人の意思を尊重している。しかし自宅の都合で急遽当ホームに入居を余儀なくされるという例もあった。</p> | | <p>馴染みながらの入居が出来ない入居者に対しても根気強い馴染みへの努力もされている。入居者一人ひとりの思いに添った支援を今後も期待する。</p> |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>実施している。面会時等で本人の生活を報告し、密な関係をとつつある。もっと文章や電話等も利用し関係を深められたい。</p> | | <p>現役時代の仕事の技術を活かしリビングを飾る木彫り、版画、和装小物をエプロンにしたり、布花、新聞紙と粘土のお雛様、手書きの童謡の歌詞とリビングは入居者の作品で飾られていた。職員の支援があつてできていると推測できる。製作中のリビングの様子を見たいものである。</p> |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------|---|--|---------------------|---|
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1.一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>実施している。本人との話し合いの場をもち意向の把握に努めている。</p> | | <p>家族からの連絡の少ない入居者も複数いるので引き続き身体の健康のみならず心の健康も支援していただきたい。</p> |
| 2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>実施している。家族からの情報は少ないが、本人の意見を反映している。</p> | | <p>介護計画、日常の介護記録に配慮されたい。毎日の記録は日々の変化、必要な情報が見易く記録されていることが求められる。日常業務が多忙な中で記入し易い様式を検討されたい。入居者の体調の変化、心の移ろいなどを的確に把握し、だんだん重度化が予想される事態に備えられることを望む。</p> |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>実施している。その都度行っている。</p> | | <p>介護計画の策定見直しは行われているが、今回計画作成担当者1名が退職したため、今後は新体制でしっかり作成されたい。</p> |
| 3.多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p> | <p>事業所はこのグループホームのみで他の事業は行っていない。</p> | | <p>本事業所は他事業は行っていない、近隣の事業所と連携できることがあれば取り入れてみることも考えられたい。</p> |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|--|------------------------------------|---------------------|---|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 実施している。健康管理等の報告は随時行っている。密な報告をしている。 | | 提携医から毎週月曜日朝入居者の体調問い合わせの電話が有り報告をする。その日の午後、内科医師が往診をしてくれる。精神科受診を必要とする入居者に対し受診の支援をしている。 |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 実施している。家族、ドクター、職員との話し合いの場を設けている。 | | 家族で話し合いが出来る入居者については話し合い、家族の支援がない利用者には、成年後見制度の利用などを考えて見られることを提案する。 |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 実施している。個々への対応はその都度適宜に行っている。 | | 一人ひとりの誇りを傷つけることなく、入居者の言葉を暖かく受け留め、心を解していける努力を更に続けられたい。 |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 実施している。一人ひとりのペースに合わせて、意思決定を尊重している。 | | 本人の希望に添って支援している。何事も強要することなく個人の意志を尊重している。 |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------|--|---|---------------------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 実施している。食材の準備、調理準備(皮むき、おろし、食材切り、配膳準備、配食、片付け、食器拭き) | | 信頼できる農家から有機玄米、有機野菜を直送してもらっている。調理専門職員がいて精米もホームするなど食材にこだわっている。手伝える入居者は少ないがもてる力維持のためにも出来るだけ家事参加することを続けていただきたい。 |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 実施している。要望があれば夜間浴も行っている。夫婦であっても個浴や夫婦浴を取り入れている。就寝前の入浴希望者もいる。 | | 入浴は時間を一応決めているが、夜間入浴の要望に添って支援している。更に続けていただきたい。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 実施している。地域レクリエーションへの参加、体力づくり、彫刻、裁縫、ミシンがけ、園芸や菜園等の取り組みの考案。 | | リビングの作品を見て個人製作あり、共同制作ありと入居者が楽しい時間を共有したと思われるものが多かった。職員の支援努力の跡が伺われた。 |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 実施している。本人の希望に応じている(ただし職員配置や車両の手配、季節、天候の考慮により支援している) | | ケアプランに散歩を取り入れているのでリハビリをかねて、条件が整えば近所に出かけている。春にはお花見、秋は散策と少し遠出もしている。 |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 内ドアは自動ドアで、出入りはリモコン操作である。申請時に許可を得ている。外出時はドアの開閉は行う。警察からの指導も有りリビングからは自動で開かない(ホームの直近に交通量の多い道路があり、又、入居間もない頃ホームを出た為警察に通報した経験を踏まえ家族からの申し出もあり)。 | | 玄関は施錠していないがリビングのドアは入るときのみ自動ドアである。出るときは自動では開かない。前面ガラス戸で閉塞感はない。 |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|------|--|---|---------------------|--|
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 救急救命等の講習の参加。消防訓練時での応急手当の対応の指導は受けている。地域の人々の協力を得られるよう働きかけて頂きたい。(地域支援ネットワークの会合の参加) | | 救急救命、消防訓練で応急手当対応の講習は受けている。ホーム内2回くらいは開くことを考えられたい。又日ごろから地域との交流を進め緊急時の協力をお願いすることが大切である。 |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 実施している。少食者に対しては間食及び、食事回数を増やし、嗜好品で摂取している。水分補給も多種類(柚子茶、ココア、カフェオーレ、紫蘇ジュース、紅茶、黒豆茶、麦茶、煎茶、ほうじ茶、玄米茶等、)の飲水を試みている。 | | 食事摂取・水分摂取量の記入はあるが、一定期間(週、月)の個人摂取量の把握がしにくい、記録の改善が望まれるところである。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 実施している。両ユニットとも南側ベランダの朝日をカーテンにて調節し、フロアから見える季節の花、植木で季節感を取り入れている。室内にも生花を飾っている。 | | リビングは広く明るい。入居者同士自分が作品(童謡の歌詞)を書いたときのことを思い出してお互いに話していた。ベランダに花もあり家庭的である。共有空間はくつろげる場所となっている。 |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 転居時本人の希望の家具、茶箆筒、絨毯、小物等を設置している。個々の入居者の希望を取り入れて行きたいが、転倒などに配慮して希望に添った支援を考えている。 | | 居室は個人差で色々持ち込んでいる人、あまり持ち込んでない人と差は有る。家族の訪問のない人の居室も入居者自身が作った品を飾るなども一方法かと思われる。 |

は、重点項目。